

単元のゴール

- ・簡易化されたゲームの中で、状況に応じたボール操作やボールを持たないときの動きができる。【技能】
- ・ルールを工夫して、自己やチームの特徴を生かした作戦や練習方法を選ぶことができる。【思考・判断】
- ・ゲームの勝敗を受け入れ、仲間の考えを認めてチーム力向上を目指すことができる。【学ぶに向かう力】

単元に係る児童生徒の実態

【技能】

- ・本学級の児童は、タグラグビーを経験するのは、全員が初めてであるため、ボール操作や動きの習得の基礎が身に付いていない。
- ・体力テストの結果から、男女の体力差が少ない。
- ・前単元のベースボールから、ボール操作に不安を抱く児童が多くいることがわかる。

単元に係る児童生徒の実態

【学ぶに向かう力】

- | 体育の授業は好きですか？ | | | |
|-------------------|---------|-----------|---------|
| 好き | まあまあ好き | あまり好きではない | 嫌い |
| 23人 | 7人 | 7人 | 2人 |
| タグラグビーを知っていますか？ | | | |
| 知っている | 知らない | | |
| 12人 | 27人 | | |
| タグラグビーの授業は楽しみですか？ | | | |
| 楽しみ | まあまあ楽しみ | 不安 | 楽しみではない |
| 18人 | 10人 | 10人 | 1人 |
- ・クラスの4分の1の児童が「体育が好きではない」と回答。
 - ・タグラグビー自体知らない児童が半数以上いる。
 - ・タグラグビーへの不安を感じている児童が4分の1以上いる。

単元に係る児童生徒の実態

【思考・判断】

- | 体育の授業の中で、仲間と体育に関する会話をしますか？
(例：作戦を考える。どこに動いてほしいか要求する。) | | |
|--|--------|-----|
| する | あまりしない | しない |
| 15人 | 13人 | 11人 |
- ・チームで作戦を立てたり、プレー中に仲間と会話をしたりする児童が15人しかおらず、チーム力が向上するためにどうすればよいのか思考をこらす経験が少ない。

単元のゴール【技能】

- ・パスやキャッチなどの基本的なボール操作技術の習得。
- ・ボールを持たない時、トライを意識したサポートができる。

単元のゴール【学ぶに向かう力】

- ・「体育って楽しい」「タグラグビーって楽しい」と感じる児童の増加。(数値目標：39人中35人以上)
- ・チームスポーツの良さに触れ、積極的に仲間と関わろうとしている。

単元のゴール【思考・判断】

- ・チームの特徴を生かした作戦を考えている。
- ・仲間の良いプレーや課題に気づき、教え合おうとしている。
- ・学習カードで気付きや学びをふりかえろうとしている。

教師の指導観【技能】

- ・慣れの運動の中に、基本的なボール操作習得のための内容を組み込み、基本的技術の習得を目指す。
- ・単元序盤は初めて経験するタグラグビーなので、こちらから課題を提示し、単元後半には自ら課題を選択し練習できるようにする。
- ・メインゲームの人数を3対3にすることで役割行動を明確化するとともに、作戦ボード等の教材の工夫により、ボールを持たないときの動きを身につけさせる。

教師の指導観【学ぶに向かう力】

- ・輝いていた仲間をたたえる団結カードを用いて意欲向上をはかる。
- ・ルールを簡易化することで苦手意識を取り除くとともに、タグラグビー説明盤を用いて、視覚的にわかりやすくルールを理解させる。
- ・慣れの運動の中に楽しみながらタグラグビーの基本に触れられるメニューを組み込む。
- ・円陣コールや得点したときのパフォーマンスを考えさせ、一体感を感じさせる。

教師の指導観【思考・判断】

- ・作戦ボードを用いて作戦会議を行う機会を試合前、試合間に設ける。
- ・学習カードを工夫し、自分の反省とチームの反省に気づけるようにする。
- ・どのような言葉かけをすればいいのか分からない児童のために効果的な言葉かけの例を示す。
- ・課題を解決するためにどのような練習が必要なのか考え、選択できるように、練習メニューを提示する。

授業のねらいと指導内容及び願う子供の姿

時	◎授業のねらい ○指導内容	◆各時間終了後の願う子供の姿
1	◎タグラグビーの授業の進め方やルールを知ろう ○授業の進め方・ルールの確認 ○慣れの運動や用具の準備・片付けの確認	◆タグラグビーについて興味をもち、慣れの運動のやり方を覚えようとしている。 ◆用具の準備や片付けを積極的に行い、分担された役割を果たそうとしている。
2	◎突破を意識して攻めよう ○ボールをもったらひたすら前に突き進む ○インバーターゲームで突破力を身につける	◆ボールをもったら積極的に前に進もうとしている。
3	◎タグを取られたら上手にパスをつなごう ○味方への取りやすいパス ○走りながらボールを取る	◆パスやキャッチなどの基本的なボール操作ができる。
4	◎よりよいサポートの仕方を身につけよう ○タグを取られたらボール保持者の後ろへまわる ○深い三角形をつくる	◆よりよいサポートの仕方について考えている。
5	◎チームで突破する方法を考えよう ○相手を引きつける方法を考える	◆相手を引きつけて得点へ結びつける方法を考え、実践することができる。
6	◎チームの課題を見つけ練習しよう1 ○自分のチームの課題について話し合う ○課題に即した練習方法を選ぶ	◆チームの課題に気付き、練習を行うことができる。
7	◎チームの課題を見つけ練習しよう2 ○自分のチームの課題について話し合う ○課題に即した練習方法を選び練習を行う	◆チームの課題に気付き、練習を行うことができる。
⑧	◎自分たちだけの作戦を考えて実行しよう ○自分たちの特徴を生かした攻め方を考える	◆自分たちが考えた作戦を試合の中で実践することができる。
9	◎仲間と協力をして、試合を楽しもう。 ○団結組タグラグビー大会を行う	◆チームで競い合う楽しさやできる喜びに触れ、タグラグビーに進んで取り組もうとしている。

学習過程

時	1	2	3	4	5	6	7	⑧	9
5	オリエンテーション 用具の準備・集合・整列・健康観察・挨拶・準備運動 慣れの運動(握手タグ取り・チームタグ取り鬼・トライアングルパス)								
15	ねらい①: 基本的技能を身につけよう。 突破を意識して攻めよう		ねらい②: チーム力を向上させよう 上手にパスをつなごう		チームで突破する方法を見つけよう		チームの課題を見つけよう1 チームの課題を見つけよう2		自分たちだけの作戦を考えよう
30	・学習の約束 ・DVD視聴 ・学習の進め方 ・学習カードの使い方 ・準備・片付けの仕方 ・慣れの運動の確認 ・試しのゲーム	・インバーター	・サポートラッシュ	・クロス ・ダミークロス ・とばしパス ・ブラインド攻撃	課題選択練習				団結組 タグラグビー 大会
40	メインゲーム1 試合1 試合2 反省			メインゲーム2 作戦の確認 試合1 作戦タイム 試合2 反省					
40	学習のまとめ・今日の団結マン・次時の予告・後片付け・整理運動・挨拶								

主体的学び

- ・慣れの運動に遊びの要素を取り入れた
り、メインゲームのルールを簡易化する
ことでラグビーに対する意欲を向上
させる。
- ・与えられた練習を行うのではなく、自ら
の課題に即した練習方法を選ぶことで、
ゲームに向けての意欲を向上させる。
- ・チームで考えた作戦を実際のゲームで実
行し、成功させようという意欲を高めさ
せる。

対話的学び

- ・自分たちの長所はどこなところなのか話
し合いながら答えを導き出させる。
- ・アドバイスタイムにおいて、兄弟チーム
の作戦へのアドバイスを積極的に行わ
せる。
- ・試合を通じて声をかけ合い、試合間の作
戦タイムで次の試合に生かせる効果的
な話し合いをさせる。
- ・授業のふり返りに活躍していた児童を賞
賛し、学級で喜びを共有する。

深い学び

- ・授業のふり返りの中で、気がついたこと
を全体に発表する。
- ・試合間に出た話し合いの中で出た意見を
すぐに試合に生かす。
- ・仲間の良いプレーを見つけ、賞賛するこ
とで、自分のプレーの質の向上につなげ
る。
- ・「楽しい」「もっとやりたい」と思える児
童を増やし、ラグビーや体育自体へ
の意欲を高めさせる。

本時の目標 チームの特徴を生かした作戦を考えている。【思考】

本時の授業の着眼点

本時の展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導◆評価規準△努力を要する児童への手立て)
導入	1 用具の準備・集合・整列・健康観察・挨拶・準備運動 2 慣れの運動を行う。 ○握手タグ取り ○チームタグ取り鬼 ○トライアングルパス	○役割ごとに素早く安全に準備をさせる。 ○服装を確認し元気よく挨拶を行わせる。 ○全員の顔色を確認し健康観察を行う。 ○準備運動では、各部位をしっかり伸ばし、けがの防止を意識させる。 ○各運動を正確に行うように声かけをし、良い動きをしている児童は賞賛する。 ○握手タグ取りでは、安全に活動できるよう十分にスペースを確保してから行う。 ○チームタグ取り鬼では、タグを取ったら得点が2倍になる相手を作り、チームで計画的に動きを考えさせる。 ○トライアングルパスでは、後方にパスを出すという感覚が習得できるよう声かけを行う。 ○慣れの運動は主運動と関連させながら行わせる。
	3 本時のねらいを確認する。 自分たちだけの良さを生かした作戦を考えよう。	
展開	4 自分たちの長所を生かした作戦を考えさせる。 例)・『裏の裏作戦』 足の速い人が突破と見せかけて実は引きつけ役でキャッチの上手な人が突破する作戦	○前時の課題だけに目を向けるのではなく、自分たちの長所を生かした作戦を考えるよう伝える。 ○学習カードをもとに自分たちの長所にあった作戦を考え、作戦プリントに書かせる。 ○作戦の題名だけ掲示し、意欲を高める。 ○それぞれのホームコートで練習を行わせる。 ○アドバイスタイムの行い方を参考に話し合わせる。 ○作戦ボード等を使い動きの確認を行わせる。
	5 兄弟チームで練習を行う。 ①回チームの練習(結チームは練習相手) ②アドバイスタイム ③結チームの練習(回チームは練習相手) ④アドバイスタイム アドバイスタイムの約束 ①全員が必ず発言する ②仲間が意見を述べるときは聞く ③作戦ボードや資料を効果的に活用する ④映像を見ながら説明する ⑤方向性を統一する	◆チームの特徴を生かした作戦を考えている。【思考】 【努力を要する児童(チーム)への手立て】 △なかなか作戦が思いつかないチームに対して、前時までの学習で習得してきたことを思い出させたり、そのチームの特徴にあった簡単な作戦を教師が助言する。 【十分満足できる判断できる児童(チーム)への発展的な内容】 ○作戦が通用しなかったときを想定し、新たに作戦を考えさせたり、兄弟チームに積極的にアドバイスをさせたりする。
まとめ	6 ノイフゲーム ①第1試合(3分-1分-3分) ②作戦タイム(2分) ③第2試合(3分-1分-3分)	○挨拶・円陣を行い試合を始め、得点を決めたらチームオリジナルのパフォーマンスを行うなど、ゲームへの意欲を高めさせる。 ○間の作戦タイムで給水をしっかりとらせる。 ○作戦タイムで出した課題を2試合目に生かせるようにさせる。
	7 後片付けをする。 8 学習のまとめをする。 9 整理運動をする。 10 次時の予告を聞く。 11 挨拶をする。	○素早く安全に後片付けをさせる。 ○学習カードの本日のふり返りを書かせ、気付いたことを発表させる。 ○本日の団結マン、団結ウーマンを発表させ、団結コールを行う。 ○教師から見た良かったプレーや効果的なアドバイスを紹介する。 ○次時はラグビー大会であることを知らせ、意欲化を図る。

- 単元を通して行ってきた慣れの運動の3つの練習は、メインゲームで力を発揮するために効果的であったのか。
- 児童が自チームの長所を見つけ、作戦を立てるヒントとなる教材は、適切であったのか。
- ・学習カード・作戦ボード・ヒントカード・攻撃パターンカードなど
- 長所を生かした作戦を考えたり、アドバイスタイムだったり、試合間の作戦タイムだったり、対話性を求めた反面、運動量が十分であったか。
- メインゲームでは、6コートある関係で審判を配置できなかったが、子どもたちだけでセルフジャッジができていたか。できていなければどのような声かけが試合前に必要なのか。

願う子供の姿

- ・チームでの話し合いに積極的に参加し効果的な意見が発表できる姿。
- ・意欲的にチームで課題を克服したり、作戦を立てたりする姿。
- ・仲間の良いプレーに賞賛をおくり、仲間との絆を深めることができる姿。
- ・勝敗を受け入れ、次のゲームにどのように挑んでいくべきか考えられる姿。
- ・準備片付けを率先して行い、場や用具の安全に気を配ったりする姿。
- ・ラグビーが楽しい、体育が楽しいと心から感じられる姿。